

ボランティア部の活動

ともしび
共生委員会ニュース

2017 年度　5 号

2018 年 2 月 15 日版

自己満足の中にあるもの

HR302　H.S.（ボランティア部　前期部長）

「ボランティアは自己満足だ」というような言葉をよく耳にする。はっきりと否定したいところだが、それはあながち間違いではないのではないかとも思ってしまう。それは、自分自身が自己満足で活動している部分があるからだ。単純に、ボランティアをしていると、自分にも人のためにできることがあると知る。それが自信につながり、精神的に成長する。加えて、ボランティアは実際に現場に赴いて、相手と向き合わなければ成立しない。すると、今まで持っていた知識が表面的なものでしかないと実感し、支援する対象の真の姿が見えてくる。それは日常生活において自分の視野が広がるため、人間的に成長することにつながる。こう考えると、ボランティアはほとんど自分のために行うようなもので、人のためなどという理由は二の次になる。やはり、ボランティアとは自己満足の存在だと思う。しかし、ボランティアの名の下に厚意を相手に押しつけ、「助けてあげている」という高慢な思いを抱いてしまうよりはその方がいいのではないだろうか。自分の成長が他の活動をする際に活かされ、また新たな成長をすることができるならば、これ以上の喜びはない。その過程で誰かのためになったということが、ボランティアにおいて成功といえる。

私は「自分探し」のためにボランティアをしていると思う。先ほど述べたが、相手と向き合わなければボランティアは成立しない。相手がどんな環境にいてどんなことをしてほしいかを正確に把握しなければ、せっかくの活動が的はずれなものになり、自分のためにも相手のためにもならないからだ。相手と向き合うことで、自分に足りないものが見えてくる。自分が今まで知らなかったこと、触れてこなかったことを相手が求めていたり、自分で発見したりした時、自分がいかに未熟で、表面的にしかものを見ていなかったかを思い知る。私はボランティア部で障がいを持つ人々と交流していたが、彼らは自分を良く見せようとすることがなく、等身大の姿で接してくれる。彼らと向き合うと、普段の自分が恥ずかしいとさえ思う。鏡のように自分と相手とを比べ、相手にあって自分にないものを見つけ出し、日常の中で活かすことでより成長することができる。自分の知らない自分が見える。ボランティアが、その「鏡」の役割を果たしてくれている。この自己満足は、ボランティアでしか味わえない感動を秘めていて、それが、私が活動を続ける確かな理由である。

Random Acts of Kindness

Sam Berry

This week (February 11-17) is **Random Acts of Kindness** Week, and Saturday (February 17th) is Random Acts of Kindness Day. During this time, many people all over the world try to do something nice for somebody else, maybe for a friend, or maybe for a **stranger**. The idea is that one **small act of kindness** may **encourage** another small act of kindness. This will encourage more and more kindness, and so through one small act of kindness, we can help to bring lots of **positivity** to the world.

Here's a video, which may help to explain it a little better: www.tinyurl.com/AGkind

So, I have a challenge for all of you. Do one small kind thing for somebody else, and don't **expect** anything back. Try it! Just one small act of kindness. Here are some **suggestions**:

Useful Vocabulary

random: 無作為の, ランダムな

act of kindness: 優しい行為

stranger: 見知らぬ人

encourage: ～を促進する

positivity: 前向きさ

expect: ～を予想する, 予期する

suggestion: 提案, 意見

compliment: ほめ言葉, 賞賛

criticize: 批判する

bullying: いじめ

- Give up your seat to someone on the train.
- Pick up some trash on the street.
- Buy somebody lunch
- Give some money to charity
- Make dinner for your family
- Volunteer
- Give someone a **compliment**
- Give Mr. Berry $100,000,000…

Let's make the world a slightly better place!

By the way, here are some more interesting dates…

Date	Title	Notes
Feb 11th	Don't Cry Over Spilled Milk Day	*This is a day to think positively! Don't worry about the small things.* *覆水盆に返らず!*
Feb 14th	Ash Wednesday (The start of Lent)	*During Lent, Christians traditionally **fast** and focus on prayer. Many Christians and non-Christians, too, also often decide to give something up, for example, smoking, fast food, **criticizing**. What will you do?*
Feb 17th	Random Acts of Kindness Day	*Do something nice!*
Feb 23rd	International Stand Up to **Bullying** Day	*Do you know anyone being unkind to someone else? Tell them to stop. Do you know anyone having a hard time? Talk to them.*
June 18~22	Aoyama Gakuin Global Week	*Get involved. Find something to be passionate about.*
June 6~14	難民キャンプへ古着を送ろう！campaign	*Find out more information here: www.wakachiai.com*

《６８期修学旅行学年集会（２０１８年１月２５日）感想》

修学旅行を次年度に控えた１年生３学期というタイミングで、PS 講堂にて修学旅行事前学習のための学年集会を実施しました。

今年は初の試みとして、昨年８月 NHK で放映された『長崎と沈黙～長崎浦上の受難～』を視聴し、印象に残った言葉や初めて知ったことについて考える機会を持ちました。

その中の感想の一部をご紹介します。

『長崎と沈黙～長崎浦上の受難～』を見て

HR108　Y.A.

今回この DVD を見て、沖縄の時とは違った苦しみがあったのだということを改めて強く感じました。

私は小さいころから沖縄に行くときは家族に連れられてひめゆりの塔に行くなど、戦争について知っていたつもりでした。しかし「原爆」のことについて何一つ学んでいなかったことに気づきました。私は広島にも長崎にも行ったことがありません。だから「原爆」について詳しく勉強せず、この DVD ではじめて浦上町に落ち、約 15 万人が亡くなってしまったのだということを知りました。

そのなかでも特に中村由一さんのお話が心に残りました。原爆の被害にあい、お兄さんと弟さんを亡くしてとてもつらかったうえに、ほかの小学校でも１、２年生の時には髪がなくて「河童」と言われ、高学年では「原爆」と言われるなど、何も悪いことをしていないのにこんなにもひどくつらい差別があったのだとわかり、本当に悲しく思いました。また、同じ日本人でつらい戦争を生き抜いた人同士なのに、なぜこんな差別をしてしまうのだろうと強く疑問に思いました。しかし同時に、私は戦争を経験したことがなく、原爆や空襲にもあっていないからこんな勝手なことを言えるのではないかとも思いました。

私たちは戦争をしたことがないし、当時どんなにつらいものだったのか、沖縄や長崎広島、日本全体の出来事などを、身をもって知ることはできません。しかし私たちは知り、後世に伝えることができます。DVD の中で一人の女性が語っていた「平和がどれほど大切で重要なことか」、私たちは改めて勉強し直さなければならないと思います。

また、日本国内だけではなく、世界の戦争にも目を向けなければならないと思いました。DVD でスペインのゲルニカと日本はつながっていることを知りました。平和について考えることで、世界につながることができると思いました。

私は今回この DVD を見た後、両親に広島に行きたい、とお願いしました。春休みに行く予定です。日本人が自分の国であった歴史や罪を知らないのはとても恥ずかしいことだと思います。長崎に行く前に広島に行き、原爆について深く知りたいと思っています。

セカンドハーベストジャパン
「フードドライブ」活動報告

HR305　T. S.

日本で貧困に苦しんでいる人と聞いて、どのようなイメージを持ちますか？ホームレスとして道端で生活している人だけが、飢えで苦しんでいるわけではありません。先進国である日本でも、6 人に 1 人が十分な食事を取れない生活をしていると言われています。住む場所があり、職があっても、シングルマザー、学生、ギャンブル依存者などは、その日の食べ物を探すことに精一杯なのです。

そんな様々な事情を抱えた人のために、「フードセーフティネット」、最低限の食事の保障をするためのフードバンクという活動があります。廃棄処分してしまう食品を企業、個人から引き取り、それらを必要な人へ送る仲介をすることです。この活動は、フードロスを無くすと同時に、食べ物に困っている人を助けることができます。

昨年 6 月に行われたグローバルウィーク後に有志で集まった生徒 10 名ほどで、9 月にはフードバンク団体、セカンドハーベストジャパンを訪問しました。そこで日本のフードロスの現状、私たちにできることを学びました。先月行われた校内最初のプロジェクトでは、たくさんの人がフードドライブに協力してくださり、22kg もの食べ物を寄付することができました。

日本では毎年、米の年間生産量とほぼ同じ、17,880,000 トンの、まだ食べられる食品が捨てられています。それに対して、約 2000 万人が食べ物に困っています。この矛盾、おかしいと思いませんか？私たち ASC(Aoyama Second Chance)は、捨てられるはずの食べ物に第 2 の可能性(second chance)を与え、必要な人へ届くように、今後も積極的に活動していきたいと考えています。少しでも興味のある 1、2 年生はぜひ声をかけてください！



